

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	エネルギー変換工学		
英文授業科目名	Energy Conversion		
開講年度	2004年度	開講年次	3年次
開講学期	5学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-専門共通科目-選択必修科目		
開講学科・専攻	知能機械工学科		
担当教官名	小泉 博義		
居室	東4-621		

公開E-Mail	授業関連Webページ
koizumi@mce.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
はじめに、「エネルギー変換工学」の基礎となる熱力学について、その概要を学びます。熱力学は、いろいろな熱現象の間関係を明らかにする自然科学全般の基礎をなす重要な学問体系です。また人類のあらゆる活動の源泉であるエネルギー問題にも密接に関係します。次に、熱より動力を取り出す目的で現在広く用いられている熱機関について、その原理や問題点を学びます。さらに、新エネルギー関係の最近のトピックス（燃料電池・熱電発電・原子力発電・核融合炉）について言及します。

【前もって履修しておくべき科目】
微分積分学、力学

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

【教科書等】
教科書： 基礎熱力学（英文演習問題付）、小泉博義著（2003.9発行） 参考資料： 講義中に適宜配布する。

【授業内容とその進め方】

[1] 序論

熱力学の歴史、熱平衡と準静的変化、仕事、状態量

[2] 熱力学第一法則

熱力学第一法則（閉じた系、開いた系）、絶対仕事と工業仕事

[3] 熱力学第二法則

サイクルと熱効率、カルノーサイクルと逆カルノーサイクル

[4] 気体の流れ

基礎式、よどみ点、ノズルからの噴流

[5] 熱エネルギーより力学的エネルギーへの変換

- ・ オットーサイクル、スターリングサイクルなどの熱機関サイクル
- ・ 蒸気の性質とランキンサイクル

[6] 新エネルギー関係の最近のトピックス

- ・ 燃料電池、熱電発電
- ・ 原子核エネルギーの熱エネルギーへの変換（原子力発電、核融合）

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法：

期末試験および講義の後に行う演習の結果を、次のように総合評価する。

成績評価 = (演習の評価点 × 40%) + (期末試験の評価点 × 60%)

出席が重要です!!

(b) 評価基準：

以下の到達レベルをもって最低達成基準とする。

- (1) 閉じた系、開いた系の熱力学第一法則を理解している。両系に出入りする熱や仕事量を計算できる。エンタルピーを用いて、熱力学第一法則を表せる。
- (2) 各種熱機関サイクルの理解、ならびにその理論熱効率が求められる。

【オフィスアワー：授業相談】

講義日（木曜7限）の午後 5:00-7:00。

【学生へのメッセージ】

物質とエネルギーは切っても切れない関係にある。将来何をするにしても熱力学の理解ならびにエネルギーの有効利用は重要です。十分身を入れて勉強して欲しい。

【その他】